

説教：神の恵みの栄光のために-芳しい服従と力をもって、イエスとともに歩む

おはようございます。OIC&父の家へようこそ

今日も引き続き、聖霊の靈感を受けて使徒パウロが書いた手紙、エペソ書を読んでいきましょう。前回のメッセージでは、パウロがエペソの信徒に、したがってすべてのクリスチャンに、“神の恵みの栄光のために-感謝をもってイエスと共に歩む”というクリスチャン生活を送るための教えを与えたことを見ました。今週、私はメッセージのタイトルを“神の恵みの栄光のために-芳しい服従と力をもってイエスと共に歩む”としました。注：各メッセージのタイトルでは、エペソ人への手紙のメインテーマである「励まし」を繰り返しています：神の恵みの栄光のために。

朗読 (エペソ 6.1-3) : 子どもは両親に従いなさい。神は、親が子どもを監督する権威を認めておられるのです。従うのは正しいことです。2「あなたの父と母とを敬え。」これは、「十戒」の中で対人関係について言われた第一の戒めで、その後には約束があります。3つまり、「父母を敬うなら、あなたは幸せになり、長生きする」(出エジプト 20・12) という約束です。

次のことは、あるクリスチャンを驚かせるかもしれません。私たちは、自分たちがもはや律法の下にないことを知っています。  
なぜなら、律法は怒りをもたらすからです。

ローマ 4:15 結局は、神の怒りを招く結果に終わるだけです。律法を破らないためには、破るような律法を持たないようにするしかありません。

ローマ 6:14 罪は、二度とあなたがたを支配しません。なぜなら、あなたがたはもう律法に束縛されてはおらず、恵みの中にあって、自由の身となっているからです。

しかし、このエペソ人への手紙 6 章では、律法にはまだ私たちに対する呪いではなく、私たちに対する約束があると言われています。パウロは、モーセに与えられた律法 (出エジプト 20.12) の条件付きの祝福を、ここ (エペソ 6.3) で引用しています。明らかに、この手紙はクリスチャンに向けて書かれているので、パウロは両親を敬う未信者にそのような約束があるとは言っていません。また、クリスチャンが両親の名誉をどの程度傷つけたら、神はその人の命を縮め、祝福を取り去られるのでしょうか。これは神が決めることであり、私たちが正確に測ることはありません。しかし、たとえ両親がクリスチャンでなくても、両親を敬うとき、私たちがイエスを喜ばせていることは確かです！両親の権威を敬うことは、決してイエスに従うことに逆らうことではないことに注意しましょう。

マタイ 10 : 37 'わたし以上に父や母を愛する者は、わたしを信じる者にふさわしくありません。また、わたしよりも息子や娘を愛する者は、わたしを信じる者にふさわしくありません。

エペソ 6.4 より、親であるあなたがたに一言：'両親にもひとこと言っておきます。子どもを、いつもうるさくしかりつけて反抗心を起こさせたり、恨みをいだかせたりしてはいけません。かえって、主がお認めになる教育と、愛のこもった助言や忠告によって育てなさい。'

子供たちが親のしつけや主の教えに従わず、反抗的な態度を示し続けるとき、聖書は“痛み”を伴う肉体的なしつけを教えます。

(箴言 13.24) 子どもを懲らしめない親は、その子を心から愛していないのと同じです。愛している子なら罰するはずです。

私は2つの注解書で、“rod (鞭)”を“あらゆる種類の躰を意味する具体的な言葉の形”と定義しているのを見つけました。悪魔の最大の手口は、聖書の文字通りの意味の多くを具体的な言葉の形に変えることです！それこそが、生ける神の御言葉に対する、このおだてられる非聖書的コメントの背後にいる人物なのです！1980年代にアメリカのクリスチャンから子育ての専門家として認められていたジェームズ・ドブソン博士は、これに同意していませんでした。彼は、ごくわずかな肉体的苦痛であっても、しばしば必要であるが、常に必要であるとは限らないと強調しました。ドロシーと私は、ライラックの灌木の細い枝を、一瞬の“刺すような痛み”を与えるために背中に当てることを学びました。私たちはまた、肉体的な「むち」や「たたくこと」は、明らかな反抗を伴う不服従に限るというドブソン博士の教えにも同意しました！また、“子供の体のどの部分にも、たとえお尻や臀部であっても、決して直接手を当ててはいけません。そう、神は母の胎内でさえも教え始められるのです。神はご自分の子どもをしつけるために痛みを用いることが多いという聖書の真理を教えることによって。私たちはまた、告白すべき罪がなくても、神は痛みを通して私たちが学ぶべきこと、罪を悔い改めること、成熟することを教えていることを知っています。従って、私たちが成熟するために必要な痛みを神が私たちの人生に与えることは、たたくことや痛みを与える道具としてサタンが解放されることかもしれません。しかし、私たちの愛する父は、私たちに何が必要かを最もよく知っておられるので、完全にコントロールされています！

明確な反逆：(1サムエル 15.23) 反逆は古い罪に等しく、不従順は偶像礼拝に等しい罪なのだ。もはや主のおことばを無視したからには、主もあなたを王位から退けることだろう。」

神は、私たちが“罪”に対して罰を受ける必要があることを知るために、私たち全員を創造されました。もし私たちが肉体的な懲罰によって愛を示すことを恐れるなら、警察か神のどちらかが、私たちが神に従わなかったことを行ってくれると私は保証します！

これらの注解書が、羊飼いの群れの羊を守るために痛みを与える道具であった「鞭」を再定義することは、聖書的には意味がないのです。Expositorの聖書注解は次のように語っています：「羊飼いの世話は“棒”と“杖”に象徴される。羊飼いは、野生の動物を棍棒で打ち負かし、杖で羊を管理しました。”

朗読(詩篇 23.4) たとえ私が暗い谷を歩こうとも、あなたの杖と鞭が私を慰めてくれます、

## 要点#1

したがって、野生動物を叩いて羊を守るための棒は、反抗的な子供から野生を追い出す道具としても聖書に示されています。ドロシーと私は、しつけとして痛みを伴う罰を与える

ために「鞭」を使うのは、旧約聖書の中で指示されているように、子供が明らかな反抗を示している場合に限るべきだと信じています。

そこで、これは現代の心理学者の教えを満足させるために、神の御言葉に重大な変更を加えたものであるとして、私はさらに釈義を進め、「鞭を惜しむ者はその子を憎む」の意味を明らかにすることにします。

新約聖書もまた、この「真の愛による子供への厳しい仕打ち」を支持しています。

(ヘブル 12. 5-11) 5あなたがたは神の勧めを忘れていないでしょうか。神は、このように声をかけてくださっているのです。「わが子よ。主の懲らしめを、軽く考えてはならない。主の叱責に、気落ちしてはならない。6主が懲らしめるのは、あなたが憎いからではなく、あなたを愛しているからである。

主がむち打つのは、あなたが真に神の子どもだからである。」

(箴言 3・11-12)

主に懲らしめられても、腹を立ててはいけません。あなたを愛していればこそ、そうするのです。

父親がかわいい子どもの将来を思って罰するのと同じです。

ここで、詩篇 23 篇とここでの「鞭」、すなわちギリシャ語のμαστιγών (マスティゴオ) を見てみましょう。これは鞭を意味します。父親が息子のために選んだ鞭 (ヘブル 12. 9)、ライラックの小枝のような鞭が適切であり、ローマ人が主イエスを「鞭打つ」ために使った道具のような鞭ではない。しかし、原典のギリシャ語新約聖書には、現代の多くの注釈書が言うような「体罰はない」という余地はありません。ルカ 18. 33 でイエスが私たちの罪に対するご自身の罰について預言されたように、「彼らはイエスを鞭打った後、彼を殺し、三日目によみがえらせる」。従って、旧約聖書の、子供を罰する際の適切な肉体的苦痛の教えは、新約聖書でも確認されています。

すでに申し上げたように、ドロシーと私は、枝から軽い鞭を使うような肉体的な痛みは、旧約聖書に定義されているように、魔術の罪のような反逆の罪に対してのみ用いられるべきだと強く信じています。

ブルース牧師、お聞きになりたいかもしれませんが、私たち親は、あなたがアメリカの考えで私たちをコントロールしようとしていると感じています！ 私はここで、神の御言葉を基本的な教えとして明確に用いました。アメリカの子供たち、そしてアメリカの有名なクリスチャン心理学者であるジェームズ・ドブソン博士は、私たちの子供たちが成人するまでに成長したアメリカにおける、私個人の「体験的キリスト教」です。また、もしクリスチャンのご両親が私の聖書の教えを受け入れるなら、お子さんが本当にあなたの権威に「反抗」しているのか、それとも単に状況を理解していないだけなのか、それを判断しなければならないのは私ではなくあなたたちであることを強調しておきたいのです。このことが私とドロシーを、天からの知恵を求める多くの祈りへと導いたのです。しかし、私たちは神の御言葉に従って行動する責任があります。ここで引用した聖書の箇所は、国籍や文化を問わない神の普遍的な真理です。神の言葉はすべてに優先します！

ブルース牧師、なぜそんなに時間をかけて (エペソ 6. 4) を釈義したのですか？

なぜなら、親愛なる OIC の聖徒の皆さん、神は私たちが子供の時でさえ、「罪」に対する罰が必要であることを知るように、私たち全員を創造されたからです。しかし、皆さんは自分の子供を評価することを決めなければなりません。もしあなたが、現代の心理学者で

はなく、神の御言葉に従って、肉体的なしつけによって愛を示すことを恐れるなら、警察か神のどちらかが、あなたが神に従順に子供を愛するためにできなかったことをしてくれると私は保証します！

(エペソ 6.5-8) 5 奴隷は主人に従い、最善を尽くしなさい。キリストに仕えるのと同じようにしなさい。 6-7 主人の目の前でだけ一生懸命に働き、陰では怠けるようではいけません。神が望まれることを、心を尽くして行い、キリストのために働くように、いつも熱心に喜んで働きなさい。 8 あなたがたが奴隷であろうと自由人であろうと、良い行いには、一つ一つ主が報いてくださることを忘れないように。

典型的な1世紀の奴隷は、18世紀にアメリカやイギリス向けに誘拐されたアフリカ人による強制奴隷や、今日の「奴隷売買業者」のようなものではなかったのです。これらの奴隷は、エペソのような異教の都市であっても、ローマ法によって保証された権利を持っていました。ユダヤ人の掟はさらに多くの保護を与えていました。ですから、私はこれらの聖句を、労働者としての奴隷と、企業における「ボス」としての主人に適用します。

**キリストに従うのと同じように。**これは難しいかもしれないが、神の言葉なのです。日本人のクリスチャン労働者は、キリストにあるアメリカ人の兄弟姉妹よりも、この姿勢に合っています。アメリカの自立的な考え方は、多くの創造性を与えてくれるが、しばしば、アメリカ人クリスチャンにとってさえ、「悪いボス」に従うことが難しくなります。ボスから給料をもらっているのだから、恐れるのは当然かもしれません。キリストに従うのと同じように、誠意をもって従うには、聖霊の助けが必要です。神は遅かれ早かれ、あなたが御言葉に従うことを尊ばれます。あなたの牧師は、主によって生まれ変わった後、彼の「悪いボス」を驚かせた一人のOIC信者を知っていて、祝福されています。そして、その上司は実際に、彼の「悪いボス」ぶりを良い方向に変えたのです。しかし、私の経験のように、「天幕を作る」牧師や宣教師として何年も過ごし、私のすばらしいボスであるイエスからの任務の合間に世俗的な仕事をしたとき、「ボスがもっと悪くなる」こともあります。だから、何が起ころうとも、6-7 主人の目の前でだけ一生懸命に働き、陰では怠けるようではいけません。神が望まれることを、心を尽くして行い、キリストのために働くように、いつも熱心に喜んで働きなさい。 8 あなたがたが奴隷であろうと自由人であろうと、良い行いには、一つ一つ主が報いてくださることを忘れないように。

しかし、**キリストの奴隷として、心から神のみこころを行ないなさい.....**神への信仰による従順であり、目に見える信仰は信仰ではありません。あなたの“悪いボス”をイエスのようにとらえることは、これに耐えるために必要なことかもしれません。私たちが次のように教えられているように：

(エペソ 6. 8-9) 8 あなたがたが奴隷であろうと自由人であろうと、良い行いには、一つ一つ主が報いてくださることを忘れないように。 9 主人も、いま私が奴隷たちに勧めたのと同じ態度で、奴隷を正しく扱いなさい。脅すばかりではいけません。自分もキリストの奴隷であることを忘れないように。あなたがたの主も、奴隷の主も同じお方なのです。主は人を差別したりはなさいません。

上司、政府の指導者、軍隊の将校、そして牧師など、どのような権威ある地位に就いても、労働者の中に不和があっても、柔軟に対応できる余地があります。これは欺くことではなく、しばしば“主を待ち望むこと”であり、“主の民を待ち望むこと”なのです。ビジネスにおけるクリスチャンの上司は、クリスチャンの労働者たちに対して、総体的な好

意や大きな好意を持つことなく、忍耐強く接するように仕事の焦点を変えることができ、ノンクリスチャンはクリスチャンの同僚を迫害する口実を持ってはならないのです。クリスチャンの上司は、彼らのボス、彼らの主人であり、あなたの主人であるイエスが天におられることを忘れてはいけません。

### 霊的な戦いと神の武具

これについてはこのメッセージで始まり、私が説教する次のメッセージで完結します。これは難しく、聖書の中で理解するのが難しいほとんどの事柄がそうであるように、理解することが非常に重要です。

**普遍的な戦争が存在する** そう、パウロが（エペソ 6.12）で宣言したように、宇宙には私たちクリスチャンに対する戦争が存在します：私たちの戦いは、血肉に対するものではなく、支配者に対するものであり、権力者に対するものであり、この暗い世の力に対するものであり、また、天の領域における悪の霊的な力に対するものなのです。私たちの闘いは普遍的な闘いなのです。私たちは、**霊界を含む宇宙の真の姿**を把握する必要があります。

ルカ 10・17-19) 17その後、七十人の弟子たちは喜び勇んで旅から帰って来て、イエスに報告しました。「あなたのお名前を使うと、悪霊どもでさえ言うことを聞きました。」 18「そうです。まるでいなずまのように、サタンが天から落ちるのをわたしは見ました。 19あなたがたには、敵のあらゆる力に打ち勝ち、蛇やさそりを踏みつぶす権威を与えています。だから、あなたがたに危害を加えるものなど、一つもないのです。

イエスがサタンの地上への墜落や天界の低地への墜落を目撃した時はいつでも、サタンがイエスやイエスの聖なる天使たち、あるいはイエスの力の恵みを与えられた弟子たちには、当時も今も敵わないことは明らかでした。サタンの墜落は、エデンの園で神がサタンにかけて呪いの一部だったのだろうか？ それは問題ではないが、サタンに対する神の呪いを復習することは重要です。

**エデンの園のサタン** 2024年9月21日の私が、十字架のタイトルで、メッセージに書いたように、アダムとエバが蛇／サタンに従って罪を犯した。

（創世記 3.13-15） 13主なる神は女に向かって言われた。「何ということをしたのか。」 女は答えた。

「蛇がだましたので、食べてしまいました。」 14主なる神は、蛇に向かって言われた。「このようなことをしたお前はあらゆる家畜、あらゆる野の獣の中で呪われるものとなった。お前は、生涯這いまわり、塵を食らう。 15お前と女、お前の子孫と女の子孫の間にわたしは敵意を置く。彼はお前の頭を砕きお前は彼のかかとを砕く。」

聖霊によってイエスの母となった聖母マリアです。ですから、私たちクリスチャンは、イエスが私たちの罪のために神から私たちの赦しを買うという使命を果たされたことを知っています：イエスのかかとの打撲傷は十字架上の死です。それがどうして打撲傷だけと言

えるのでしょうか？ なぜなら、イエスは御父のための使命を果たされたからです。その次の大きな喜びは、私やあなたのような罪人が罪の罰から解放されるのを見ることでした。また、イエスの喜びには、創世記 3. 15 にある「エデンの園」でのサタンに対する神の呪いを完成させるために、十字架上の苦しみに耐えることも含まれていたと言えます。サタンの頭への打撲傷は今日まで続いています。十字架におけるサタンの最大の損失は、私たちに明らかにされています。

(ヘブル 2. 14) 14 ところで、子らは血と肉を備えているので、イエスもまた同様に、これらのものを備えられました。それは、死をつかさどる者、つまり悪魔を御自分の死によって滅ぼし、

1 世紀の地上のサタン イエスとともに勝利の人生を歩んだ使徒ペテロは、クリスチャンに対して、打ちひしがれた悪魔が自分たちに対して何の力も持たないふりをしてはならないことを、次のように明らかにした

(1 ペテロ 5 ・ 8) 。

8 身を慎んで目を覚ましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたける獅子のように、だれかを食い尽くそうと探し回っています。

もしあなたが吼えるライオンや危険な動物の近くに住んだことがあるなら、彼らが近所にいないふりをするのは狂気の沙汰であることを学ぶだろう。

モンタナのグリズリーベア - 私たちの長女はアメリカのモンタナ州ミズーラに住んでいる。引っ越してすぐに、彼女は賢明にも新住民のためのグリズリーベア・クラスに参加しました。彼女は、もしクマに襲われたときのために「メース」の缶を購入した。メースは顔に吹きかけると、襲ってくる人間や動物を瞬時に止めることができる激しく強い刺激物です。ある女性は「メース」を持っておらず、グリズリーの子グマを近くで見ようと小道で立ち止まりました。もちろん、母熊も近くにいました。グリズリーは無抵抗で襲ってくるかもしれないが、「彼女の赤ちゃん」を守ることは挑発行為だった。そうです。愚かです。使徒ペテロが、ここ大阪の近所にいない悪魔のことを話しているふりをするように。

もう一度 (エペソ 6. 12) を見てみましょう：私たちの戦いは、血肉に対するものではなく、支配者に対するものであり、権力者に対するものであり、この暗い世の力に対するものであり、また、天の領域における悪の霊的な力に対するものなのです。天の下の霊的宇宙には“天の領域”があります。これらの力に対して祈るクリスチャンは、イエスの教会建設に対する悪魔の戦略をさらに弱めることになるのです。イエスはこう言われました。

(マタイ 16. 18-19) 、 18 わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てる。陰府の力もこれに対抗できない。 19 わたしはあなたに天の国の鍵を授ける。あなたが地上でつなぐことは、天上でもつながれる。あなたが地上で解くことは、天上でも解かれる。」

罪人がこの言葉を信じるところに、イエスはご自身の教会を建てられます！ペテロが使徒としてどのような特別な賜物を持っていたにせよ、使徒パウロはクリスチャンたちに、これらの邪悪な力に打ち勝つ祈りの力があることを伝えているのです。イエスの約束された結果は、ハデスの門（地獄の門）にも打ち勝つことはできません。サタンは1,000年の間、地上では完全に沈黙させられるが、それはイエスが栄光と力を持って再臨し、地上を支配してからです。

黙示録 20. 1-3) 1 わたしはまた、一人の天使が、底なしの淵の鍵と大きな鎖とを手にして、天から降って来るのを見た。 2 この天使は、悪魔でもサタンでもある、年を経たあの蛇、つまり竜を取り押さえ、千年の間縛っておき、 3 底なしの淵に投げ入れ、鍵をかけ、その上に封印を施して、千年が終わるまで、もうそれ以上、諸国の民を感わさないようにした。その後で、竜はしばらくの間、解放されるはずである。

それゆえ、今日でもサタンは地上で力を持っている。サタンは、多くの罪深い快樂、あるいは絶望的な絶望、その他の狡猾な手段で彼らを支配し、真実、イエスの輝かしい福音を分からなくさせているのです。

注：クリスチャンに対する悪魔の力の大きさは、悪魔が私たちに語っているよりもはるかに小さい。（ヨハネ 8. 44）でイエスがエルサレムの宗教指導者たちに言われたように、あなたがたは自分の父、悪魔に属しており、自分の父の欲望を実行しようとしている。彼は初めから人殺しであり、真理を守らない。彼はうそつきであり、うその父だからです。

しかし、だからといって、彼が私たちの近くにいないふりをしたり、戦うことを学ぶ必要がないということにはならない。戦わないということは、使徒パウロがエペソの信徒に宛てたこの手紙に書かれている神の教えを無視することなのだ。

クリスチャンが、エペソ 6. 11-17 を悪魔との戦いのための神のハンドブックとして真剣に受け止めることを追求すると、その悪魔はクリスチャンに、平安を失うと言うでしょう。サタンは嘘つきであるが、しかし、これは半分真実である。サタンとの戦いは、手と手との戦いのようなものです。あなたが一時的に平和を失うとしても、それは平和の君、イエスに従うためなのです。クリスチャンが悪魔と戦うとき、実際にはイエスの教会を建設し、失われた魂を救うという目的で、イエスとイエスの天使たちと共に戦っていることを忘れてはいけません！ 私たちは、個人的な非難に対しては御霊の剣を使って戦いますが、誠実なクリスチャンはキリストにあって永遠の安全を持っているので、自分のために戦うものではありません。サタンが私たちを攻撃するのは、私たちがまだキリストのうちにいない人々に手を差し伸べているからなのです。

要点 #2<sup>st</sup> 1世紀のクリスチャンに対する使徒ペテロの警告を、私たちのためでもないかのように装うのは、グリズリーベアーのいる道が無防備にジョギングするようなものだ。私たちの娘はメースを持っているが、私たちは御霊の剣を持っている。グリズリーベアーは咆哮するライオンのように、私たちよりも大きく強い。あなたの敵である悪魔は、咆哮す

るライオンのように徘徊し、誰かを食い殺そうとする。しかし、私たちは天地の主イエスのそばを歩いているので、恐れることはない。イエスが地上に戻られるとき、ご自分ほど全能ではない天使を遣わし、サタンを1000年間縛られる。神と違って、サタンは無限ではない。クリスチャンがサタンと戦えば戦うほど、サタンの狡猾さに関係なく、サタンの限られた注意を奪い、サタンが確実に手中に収めたと思っている多くの罪人からサタンの注意をそらすことになる！

ここで、18世紀の有名なイギリスの牧師／説教者、チャールズ・ハドン・スポルジョン (Charles Haddon Spurgeon) の言葉を引用しましょう。彼は(モーニング&イブニング、11月30日 夕刊)の中で、霊的戦いに関する聖書的態度を語っています：ミカエルとその天使たちは竜と戦い、竜はその天使たちと戦った。善と悪の間の平和は不可能であり、そのようなふりをするのは、かえって闇の力の勝利となる。ミカエルの聖なる魂は罪に苛まれ、それに耐えられない。イエスは常に竜の敵であり、それは静かな意味ではなく、積極的に、力強く、悪を絶滅させる完全な決意を持っている。天にいる天使であれ、地上の使者であれ、主のしもべたちは皆、戦うことになるし、戦わなければならない。彼らは戦士として生まれ、十字架において、悪と決して休戦しない誓約を結びます。主の軍に属するすべての兵士の義務は、日々、心と魂と力を尽くして、竜と戦うことである」。

さて、ここですでに述べたように、悪魔はクリスチャンに、「個人的な」方法で彼と戦うなら、平和が少なくなると言います。私たちに「個人的な救い主」イエスがいるように、悪魔は「個人」なのです。このような厳しいメッセージを持つチャールズ・スポルジョンのようなクリスチャンが平安を得るはずがないと思うかもしれない！しかし、そうではありません。神は、激しい戦いの合間だけでなく、しばしば戦いの最中にも、従順な兵士たちに生ける水の川、平安、喜びを与えてくださる。例えば、チャールズ・スポルジョンはこうも言っている：「パンケーキを食べることだ！」。悪魔との戦いは規範的なキリスト教であり、父なる神から送られた平和と同じように規範的なものなのです。

## 大阪におけるイエス

神の力は無限であり、天においても地においても敵うものはありません。イエスは、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」(マタイ 28.20)と約束されました。しかし、悪魔は、クリスチャンの数が少ない国、たとえばここ日本のように、聖霊を持っている人がわずか0.5%しかいない国では、自由に歩き回ることができます。しかし、主は私の統計による日本分析を質問で中断されました。「ブルース、私がペンテコステの日に聖霊を注いだエルサレムのクリスチャンの割合、あるいは、私がパウロとバルナバを私の福音を宣べ伝えるために遣わしたアジアのクリスチャンの割合はどうだっただろうか？「主よ、0.5%以下でしょう」と私は答えた。それからイエスは、ある有名なキリスト教の教会史家が言ったことを思い出しました：「1世紀、すべてのクリスチャンは宣教師だった！」。あなたが愛する国にイエスの福音を伝え、その仕事を成し遂げる聖霊の力に飢える心を持つために、何マイルも遠くへ行く必要はありません。私たちアレンがここにいるのは、イエスが私たちに、日本人の人々への愛を与えてくださったからです。教会成長に関する冷たい統計で日本人を怒らせるかもしれないと思うと、私は震え、涙します。なぜなら、彼らは日本でクリスチャンであり続けるために、自分たちが思っている以上にサタンと戦ってきたからです！

フランシスコ・ザビエルがイエスの福音にローマ・カソリックの教皇主義を巻き付けてこの地にやってくるずっと前に、何百万人もの日本人クリスチャンが殉教し、イエスへの信仰を撤回しないために殺されたことを、日本のクリスチャンは知らないかもしれません。聖書（ローマ人への手紙 13.7）にあるように、私たちは皆、彼らにふさわしい名誉を与えることができます。これは、今イエスと共に殉教している何百万人もの日本人に名誉を与えることであり、そうすることであなたはイエスを礼拝していることとなります！**今日、あなたの心の中で宣教師となることによって、彼らに栄誉を与えましょう..... 聖霊は、あなたがこの望みを果たす力を与えてくださるでしょう！**

そう、神に服従することは、子育てであれ、ビジネスであれ、明らかに悪魔と戦うことであれ、神の宣教師であることであれ、芳しいことなのです。とにもかくにも、私たちは神の恩寵の栄光のもとに、神の平安を得ることができます！

祈りましょう

#### 参考文献

AMPC-アンプリファイド・バイブル、&クラシック版

著作権 © 1954, 1958, 1962, 1964, 1965, 1987: ロックマン財団

EBC エクスポジター聖書注解（要約版）：旧約聖書

著作権 2004 年。

モーニング&イブニング、KJV 版 - チャールズ・ハドン・スポージョン著。ヘンドリックソン・パブリッシャーズ, 15<sup>th</sup> 印刷 2011

MOUNCE - The Mounce Reverse Interlinear™ New Testament Copyright © 2011 by William D. Mounce. 許可を得て使用しています。無断転載を禁じます。「Reverse Interlinear」は William D. Mounce の商標です。

NIVUK - Holy Bible, New International Version® Anglicized, NIV® Copyright © 1979, c 1984, 2011 by Biblica, Inc. 無断複写・転載を禁じます。